

陸連時報 第三

2013
平成25年

8

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目次

公益財団法人日本陸上競技連盟 役員・専門委員長	204
専務理事3年目にあたり(専務理事 尾縣貢)	205
専門委員長挨拶	206
評議員会・理事会報告	209
第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)	
トラック・フィールド日本代表選手メッセージ	211
強化関連情報(強化委員会)	214
モスクワのトレーニング拠点視察報告(強化委員会強化育成部委員・跳躍 福間博樹)	
第6回東アジア競技大会(2013/天津)日本代表選手について	
2013 IAAF CECS Level 1 Lecturers Course 研修会報告 (普及育成委員会普及育成部幹事 井筒紫乃)	216
大会観戦ガイド	217
陸協NEWS	218
事務局からのお知らせ	220

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

公益財団法人日本陸上競技連盟 役員

任期：2013年6月5日から2015年の定時評議員会の終結の時まで

理事 29名

会 長	(代表理事)	横川 浩		
副 会 長	(代表理事)	三宅 勝次		
	(業務執行理事)	友永 義治		
専 務 理 事	(業務執行理事)	尾 縣 貢		
理 事		橋本 秀樹	殿内 信一	武藤 顕
		保坂 一仁	鈴木 一弘	川島 茂
		松澤 二一	細田 完二	坂 一郎
		吉井 道昭	東 工曜	八木 雅夫
		岡崎 寛	永井 立子	石沢 隆夫
		原田 康弘	山本 征悦	杉本 隆志
		吉儀 宏	繁田 進	山澤 文裕
		瀬古 利彦	平田 竹男	山本 浩
		高橋 尚子		

監事 3名

監 事	山田 浩一	前島 伸行	有吉 正博
-----	-------	-------	-------

公益財団法人日本陸上競技連盟 専門委員長

任期：2013年6月5日から2015年の定時評議員会の終結の時まで

総務委員会	石沢 隆夫
強化委員会	原田 康弘
法制委員会	山本 征悦
財務委員会	杉本 隆志
競技運営委員会	吉儀 宏
普及育成委員会	繁田 進
国際委員会	田中 克之
施設用器具委員会	平塚 和則
科学委員会	杉田 正明
医事委員会	山澤 文裕

専務理事3年目にあたり

専務理事 尾 縣 貢



6月5日の理事会にて、横川浩氏の日本陸上競技連盟第7代会長への就任が決定いたしました。横川新体制での専務理事職を拝命し、3年目を務めることになりました。引き続き日本陸上競技界の益々の発展のために努力していく所存です。

この2年間を振り返る

スタートは東日本大震災からの復旧復興の最中に切られ、スポーツ団体としてやるべきことを手探りで模索することから始まりました。この希有な経験を通して、スポーツの持つ意義やスポーツ団体が果たすべき使命を改めて熟考することができました。来年度の日本選手権大会は、未だ復興禍が残る福島市で開催することが決定しています。本大会を成功させることは我々の責務であり、これによって地元の皆様に活力をもたらすことができるものと信じています。

同年7月には神戸市で第19回アジア陸上競技選手権大会が開催されました。アジア諸国の中には、震災後の日本の状況を懸念して参加を躊躇する国もありましたが、最終的には45加盟国・地域中40もの国・地域の参加を得ました。4日間の熱い戦いにより、世界に向けて元気な日本をアピールすることができました。この大会を通じてアジアにおける本連盟の果たすべき役割を認識することができましたので、今後の活動に役立てていきたいと考えています。

8月には公益法人に移行し、以前にも増して公益性の担保、組織のガバナンスの強化などに力を注いでまいりました。また、加盟団体の法人化を促進し、現時点では大半の陸協に法人格を取得していただきました。

2012年8月には、本連盟の最大目標として位置づけられるオリンピック大会（ロンドン）を迎え、精鋭46名の選手で、メダル1、入賞5という目標を掲げて競技に臨みました。しかし、健闘はしたものの、若いチームの経験不足の部分が出て、メダル1、入賞2という結果に終わりました。この結果を真摯に受け止め、11月には強化の新体制を発足し、リオデジャネイロに向けてのスタートを切りました。

振り返ると、この2年間の多くを公益法人化後の組織基盤の確立、加盟団体や協力団体との連携強化といった土台づくりの部分に費やしました。どちらかと言うと、“静”の2年間であったと言えます。ここからの2年間は、さらに強固な組織を作りつつも、普及・育成、強化での施策を積極的に行ない、“動”の期間にする所存です。

次の2年間に期すること

日本陸連は、強化活動と普及育成活動が両輪となって走り続けるべきであり、この走行を力強く安全にするために、それぞれの委員会が協力体制を構築していくべきです。そして、この車を走らせるエネルギーは、47都道府県の陸協や中体連、

高体連、学連、実業団の活動であると言えます。それぞれの思いが一致し、一つの方向性を作り出すことが出来た時に、より強い日本陸上界を創出することができるものと考えています。

□強化活動

強化においては、長期展望に立った強化方針・計画に基づいた実践が必須です。リオデジャネイロに向けては、「マラソン日本の復活」の旗印の元、異例の早さでオリンピックまでの選考方針を発表するとともにマラソンナショナルチーム構想を打ち出しました。

一般種目においても、原田強化体制の色を前面に出して、特徴的な施策に打って出してもらいたいと考えています。

もう一点、国際競技力の向上を目指していきます。すなわち、国際舞台に強いアスリートを育成するための方策を展開していきます。その一つに、この5月1日にオフィシャルパートナーのアシックスにご尽力をいただき締結したフランス陸連との提携の有効活用があげられます。ヨーロッパ拠点としての活用、合同合宿の実施、アスリートのフランス陸上留学などの方策を具現化することを急ぎたいと思います。

□普及育成活動

普及育成の活動により、陸上界は大きく変わることができそうです。「陸上競技に接し、その面白さに触れて、本格的に陸上競技の戸を叩く。そして、そこで素晴らしいコーチに出会うことで、ますます陸上競技が好きになる。途中でやめることなく、高校生まで陸上競技を続け、心身とも健康な毎日を送る。その中からトップアスリートが育ち、多くの子供たちのヒーローとなる」この好循環を目指すのが普及育成の積極的な活動だと考えています。これには、地域との連携が必須であり、この連携を地域拠点の設置により可能にできると考えています。

そして、強化、普及育成に共通して必要なものは指導者の質の向上です。他の競技団体や諸外国の事例を参考にしながら、指導者の育成に取り組んでまいります。

□組織の健全化

強化、普及育成の二大事業に加え、重点課題と位置づけているのが組織の更なる健全化です。今年に入り、スポーツ競技団体の助成金不正使用、体罰、セクハラの問題が顕在化し、スポーツ競技団体のガバナンスに疑問符が打たれる事態となっています。日本陸連としては対岸の火事と考えずに、これを機に襟を正さなければなりません。その一つの方策として、起こりうる諸問題に対応できるように、コンプライアンス規程を定め、コンプライアンス委員会を6月5日付けで設置しました。また、陸上競技関係者の体罰やセクハラに関する相談窓口として、専用電話回線およびウェブサイト内の専用フォームを設置しました。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

専門委員長挨拶

役員改選にあたり専門委員長の挨拶を掲載致します。全10委員会のうち、既に2012年12月号で紹介を致しました強化委員会を除いた、総務委員会、法制委員会、財務委員会、競技運営委員会、普及育成委員会、国際委員会、施設用器具委員会、科学委員会、医事委員会の9委員会を紹介致します。



総務委員会 石沢 隆夫

日本陸上競技連盟が、横川新会長の下、新たなスタートを切る中で、総務委員長に就任いたしました。これまで、選手時代から色々な形で陸上競技に関わってまいりましたが、組織の中に入るのは初めてです。諸先輩、関係者のお力を借りながら、重責を果たす覚悟です。

総務という言葉は、何か漠然としており、中々仕事のイメージがわきませんでした。辞書などでは、「組織全体に関する事務を扱う業務」とあり、これまたよくわかりません。他の専門委員会は、強化、法制、財務、競技運営など、取り組み内容が明確なのとは対照的です。

そこで私なりに考えたのは、これまで行ってきたプロトコールなどの担務は引き継いだ上で、各専門委員会の枠に収まらないものや、またいくつかの専門委員会にまたがる問題などに対応していくことだ、ということです。そうするためには、日本陸連の活動全体への目配り、気配りが必要です。私自身、学ばなくてはならないことがたくさんあると思いますが、積極的に多くの活動に参加し、新たな総務の役割を構築していこうと思っております。

私は長い間、新聞社に勤務しておりました。陸上担当記者として、オリンピックなど大舞台での日本選手の活躍にペンを躍らせ、時には代表選考問題などでは日本陸連を批判したこともあります。主催マラソンでは社内のマラソンディレクターを務め、日本陸連との付き合いもさせていただきました。いわば反対の立場に身を置いていたわけですが、その中で培った目も、今後に生かしていければと思っております。

中学で選手になって以来、ずっと陸上競技に寄り添い、育てられた人間です。新体制での組織の充実、陸上競技のさらなる発展に、全力で取り組んでまいります。



法制委員会 山本 征悦

前期に引き続き法制委員長を務めることになりました。

今期の法制委員は、前期と同様に多角的な視点や意見を吸収できるよう、他の専門委員会や協力団体から就任して頂いた委員の他、メディア関係者等の学識経験者で構成致しました。副委員長には前期から継続の弁護士の工藤洋治氏、そして、今期からは元NHK解説委員で現在法政大学スポー

ツ健康学部長の山本浩氏を迎え、諸課題に臨んで参ります。

委員会の活動としては、まず広告規程（運用を含め）の整備を図りたいと考えております。広告規程については、マーケティングの観点から経済状況も鑑み、国内規定でカバーできるものがあれば柔軟に対応が必要であると考えております。また、関係各所とも深く連携を取り、現場の意見も踏まえながら実態とかけ離れた規則とならないよう整備して参ります。その一方で、IAAFのルールに則り行われる国内外の国際競技会では、選手や関係者が規則を熟知せずに違反することがないように、国内競技会においても遵守すべき規定に対しては厳しく対応するなど、広告規程に対する意識も向上させるような取り組みを行いたいと考えております。

次に、国民体育大会における参加資格について、法制委員会が資格審査においてより厳密なチェックを行うと同時に、関係各所に対してルールの周知徹底を図って参ります。

また、昨今体罰・暴力問題等が話題になり本連盟でもコンプライアンス委員会や相談窓口を設置しましたが、今後はコンプライアンス委員会との連携も必要になるだろうと考えております。

法制委員会は関係各所からの諮問にも応じることも活動の一つとしており、諸問題に対しては陸上界が発展するような解決策を見出していきたいと考えておりますので、今後の法制委員会の活動へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



財務委員会 杉本 隆志

前期に引き続き委員長を拝命致しました。財務委員長として委員会活動を進めるにあたり、次の4項目を重要施策として取り組んでいきたいと思っております。

第一は、前期同様「安定的な財政基盤の構築」です。財政基盤の確立に欠かせない、スポンサーや大会協賛金の獲得のためのマーケティング活動を積極的に行います。資産の運用では、安全性を重視した運用を検討し長期的かつ効率的な財政運用を行います。

第二は、「予算の管理」です。これは事業収入・事業費の支出を中心に管理していくものであります。公益財団法人として、厳しい資金管理、資金の運用は必須条件となっておりますので、内部統制を含めた経理規程の改定を行ってまいります。

第三は、「加盟団体法人化のサポート」です。加盟団体法人化は、2013年4月1日現在で39の加盟団体が法人化を終えており、残りは8団体となります。法人化された加盟団体には経理業務運用支援等のサポートを致します。残り8団体には、法人化への支援を引き続き行っていきます。

第四は、「キャパシティ・ビルディングの検討」を行ってまいります。これは加盟団体に対し資金的支援以外の個別具体的な支援を行っていくことであります。具体的には、

経理部門が弱いとなれば、経理システムだけではなく、経理担当者の能力をアップさせる指導を行うというものです。経理以外の問題点も含めて対応していきたいと思っております。ご意見、ご要望、ご相談ければ大変有難く思いますので、よろしくお願ひ致します。

「財政基盤の安定」「公益財団法人としての資金の透明化」「加盟団への積極的支援」を行ってまいりますのでよろしくお願ひ致します。



競技運営委員会

吉儀 宏

5期連続して委員長を拝命しました。全国各地で競技運営にご尽力を頂いている皆様方のご支援とご協力のお蔭と改めて感謝申し上げますと共に、再任されるたびに申し上げている「マンネリ化しないよう」努力致しますので、引き続きご指導ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

より速く、より高く、より強くの追求は、大昔からそして未来永劫変わることのない陸上競技の本質ですが、その速さ・高さ・強さを測る手法はまさに日進月歩、科学の飛躍的な進歩に伴って、より正確に測るために、競技会に導入される計測機器類は、より精密でより精巧なものが求められるようになりました。

かつて手動のストップウォッチで計測していた「速さ」の計測が、スターターのピストルと連動した写真判定装置によるものとなったのはさほど新しいことではありませんが、今や、世界記録やアジア記録が公認されるためには不正スタート発見装置の設置が必須で、それから得られる反応時間の公表が義務付けられ、風の情報は非機械的（主として超音波式）風向風速計によらなければならず、さらにその競技場はIAAFからクラス2以上の認定を受けなければなりません。

本年は春先から若手短距離陣のパフォーマンスが目覚ましく、日本人初の9秒台や19秒台への突入が夢ではなくなってきました。ジュニア育成から強化の地道な努力が実を結びつつあること誠に喜ばしく、現場での指導に取り組んで来られた関係各位に衷心より感謝しながら、我々競技運営に携わる者は、その瞬間が『すべての要件をクリアした場所と計器での快挙』としなければならない責務があります。

競技会の主催・主管に当たられる組織にはご負担をお掛けすることになりますが、より一層のご理解とご協力をお願い致します。



普及育成委員会

繁田 進

今期も継続して陸上競技の普及・発展と指導者の養成を2本柱として取り組んでいきたいと思ひます。昨期までの事業（競技者育成クリニック事業（U13・U16）、U15トップトレーニングキャンプ、U16指導者講習会など小学生、中学生を中心とした普及活動、指導者育成活動）を継続しながら、今期は新たに以下の事業を実施します。

- 1) JAAF公認ジュニアコーチ制度の全国展開：多くの競技者を発掘・育成していくために、新指導者養成システム（JAAF公認ジュニアコーチ制度）での全国展開を開始します。2013年度は、全国10カ所でJAAF公認ジュニアコーチ養成講習会を実施し、約300名の有資格指導者の養成を目指します。
- 2) U16ブロック研修合宿の実施：U15トップトレーニングキャンプの実績を踏まえて、有望選手の発掘・育成、指導者の指導力の向上などの目的で、全国各地域（ブロック）においても研修合宿を実施します。
- 3) 新規事業の立案・実施：多方面からの優秀な人材を幅広く発掘できるシステムを作成するために、陸上以外のスポーツ種目の選手が気軽に参加できるイベント競技会や等級制度等を企画・立案し、2014年度以降の実施に向けて総合的に新たな普及政策を検討します。
- 4) 今後の普及施策の検討：今後の日本陸上界発展のために、何をすべきかについて普及政策部を中心に、調査研究し検討します。あるべきタレント発掘の形や、地域との連携についてのあり方などを検討します。
- 5) ランニング普及部の新設：昨今のランニングブームを受け、今後の有効なランニング環境の整備やランニング指導者養成制度を検討・実施するためにランニング普及部を立ち上げ、それぞれの分野の専門家に協力していただき、2014年度以降の実施に向けて多方面から総合的に検討します。



国際委員会

田中 克之

国際委員長としての私の抱負は「日本陸連の更なる国際化」です。これは何も陸上競技界の国際的潮流に乗り遅れないということだけではなく、世界の陸上競技界の潮流作りにも一層積極的に参加することでもあります。具体的には、陸上競技界の最先端の動きを迅速、的確に取り入れる一方、日本陸連の考え方や行動を世界に向けて発信し、また世界が日本陸連に期待する役割が那邊にあるかを見極めこの役割を果たすということです。

大会運営、選手・コーチの育成強化、普及活動、更には広報活動などで我々が世界から学ぶべきことはまだまだ沢山あります。これらについて世界の最先端の動きを迅速、的確に把握し、陸連の関連組織と共同でどのように我々の血とし肉となすかを検討するのが重要な任務となります。

陸上競技界の潮流を作り出す源は国際陸連(IAAF)です。幸いなことに日本はIAAFにカウンシル・メンバー（理事）のみならず数名の専門委員を送り込んでいます。これらの理事、専門委員を通じIAAFに発信すべき日本の意見を取り纏めることも重要な任務です。IAAF やアジア陸連(AAA)の日本への期待にも大きなものがあります。例を挙げれば「日本で国際大会を開催して欲しい」「AAA主催大会に日本の有力選手を派遣して欲しい」「マーケティング面で力を貸して欲しい」「途上国の選手強化に力を貸して欲しい」等です。これらの期待に全て応えることはなかなか困難な業ですが、日本の陸上競技界の発展という視点

も踏まえ、如何なる国際大会を誘致するのが適切なのか、選手参加やその他の期待にどう答えるのか等につき陸連の各組織と共同で具体的に検討することも必要となります。他方欧米の地域陸連に比べ組織的に弱いとされるAAAをどのように強化するかを考えることも必要です。更に、日本で開催される国際大会に益々多くの外国人選手が参加するようになってきていますが、これらの外国人選手が言語や風習の違いに戸惑うことなく、本来の実力を発揮できるよう支援することも国際委員会の重要な任務であることを忘れてはならないと考えています。



施設用器具委員会 平塚 和則

このたび、小池前委員長の後任として新たに施設用器具委員会委員長を拝命いたしました。当委員会は本部の委員・検定員の他に全国の都道府県に1名の検定員（北海道は2名）、さらに2名の技術役員（北海道、沖縄は3名）、そして各都道府県に1名の自転車計測員（公認マラソンコース計測員、検定員・技術役員が兼務）を配している大きな組織であります。

この大所帯を束ねて、また全国にあります公認陸上競技場・公認長距離競走（歩）路の検定業務、指導等を司ることは容易ではありませんが、全国のどこの陸上競技場も同じ仕様で、選手に公平な競技会ができる競技場づくりを推進してゆくこと、また全国各地のマラソンコースも距離が正確であり、走る選手が公認コースの距離に疑問が残らないコース計測を目指してこれまで以上に、各検定員・技術役員とともに切磋琢磨して検定業務に精励していきたいと思っております。

昨今、特に短距離陣が力をつけて、国際的に記録が注目されてきております。国際記録が認定される条件には、陸上競技場がIAAFのクラス1またはクラス2の認証を受けていなくてはなりません。

当委員会では第1種公認陸上競技場にIAAFクラス1・2の認証の申請を認めていますが、今後はIAAF認証を申請してくる陸上競技場が増えてくることが予想されています。これらに対応できるように検定員の技術の向上と国際陸連との密接な連絡を取りつつ、本連盟が国際競技会の開催でも問題のない陸上競技場の建設を目指し、使用する用器具もIAAF適用についての見直しを図り、日本陸上競技界発展のため、諸問題に取り組みたいと考えております。



科学委員会 杉田 正明

科学委員会の役割は、オリンピックや世界選手権などで活躍できるトップアスリートの強化支援を主眼とするとともに、長期的な視野に立って、年少者をも含めた年齢層についても活動の目を向け、総合的な医科学サポート体制を整え、科学的立場から選手育成と競技力向上に寄与することであり、これに資する活動を展開したいと考えています。本年度の具体的な取り組みとしては、強化委員会と密接に連携し、モスクワ世界陸上に向けたブロック毎での競技会データのフィードバック、

JISS等を活用した研修合宿での情報提供やデータフィードバック、強化合宿におけるサポート活動などを行う予定です。強化現場に密着し、個別的、実践的なデータ収集と即時的フィードバックに重点を置いた活動を目指します。国内主要大会においては、これまで通りバイオメカニクスデータの収集・分析を行い、ジュニア選手を対象とした競技会（IH、ジュニアユース選手権等）での活動も行います。IHでは障害や栄養に関するアンケート調査も例年通り実施し、U23、U19との連携を促進する予定です。今後、科学委員会としてはこれまでの活動に加え、以下の内容について活動の推進を考えています。①体力・コンディションサポート（体力測定実施及び結果活用の支援、コンディションチェックの支援）、②マラソンの暑さ対策に関する調査研究（北海道マラソン等）、③体幹筋力やバランスに関する調査研究、④障害や栄養に関するアンケート調査の拡充、⑤科学情報の整理及び普及啓蒙活動（諸情報のデータベース化及び情報交換会等の開催）などです。また、医事委員会とも連携しながら活動推進を図る予定です。25名の全委員の活動報告として、競技会データの分析結果等を陸上競技研究紀要および陸連HP等に情報発信をしていきます。どうぞよろしく願い申し上げます。



医事委員会 山澤 文裕

医事委員会は医務部とトレーナー部より構成され、日本全国から委員を選出しています。医師20名、管理栄養士1名、スポーツ免疫学者1名、トレーナー11名からなる大きなチームです。陸上競技者の皆さんが安心してプレーできる競技ルール作りと、競技会医務、ドーピングコントロール、トレーナー活動、日本代表チームドクター業務および競技者に対する健康相談、健康診断、障害予防、スポーツ栄養指導などを中心とした医学サポートを行っています。

今年度で医事委員会が行う主なこととして、①世界選手権、アジア選手権の日本代表選手の健康管理、②ロードレースにおける突然死予防対策、③都道府県陸協の医務レベルアップ、などがあげられます。2013年5月に実施したアンケート調査で、39陸協に医務部が設置され、医師が関与する陸協は32に増えてきました。2012年は医師が関与する陸協が24であったことを考えると、すべての陸協に医師が関与した医務部の設置をお願いしてきたことの手ごたえを感じています。競技者の障害予防は重要な課題で、特に発育期にある競技者のオーバーユースによる慢性障害を予防しなければなりません。陸協医務部の先生方と協力体制を構築したいと考えています。

さて、世界では国際基準を定め、それをもとに様々な事柄が実行され、異なる文化や国における問題解決が図られる時代です。筆者は国際陸連医事ドーピング防止コミッション委員として、これも含めた様々な問題解決にかかわっています。日本陸連の立場だけでなく、国際的な立場からの発信が、日本陸上競技界全体の発展のためにますます重要である、と考えています。

評議員会・理事会報告

定時評議員会

日時：2013年6月5日（水）

13時59分～15時25分

場所：ハイアットリージェンシー東京

地下1階「飛鳥」

【議題】

〈協議事項〉

1. 第2期事業報告・決算報告
2. 定款一部改定
3. その他

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数20名、出席者数17名で本評議員会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

〈協議事項〉

1. 第2期事業報告及び決算報告
尾縣専務理事より事業報告について、杉本理事・財務委員長より決算報告について、前島監事より監査報告についてそれぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。（詳細は陸連時報2013年7月号248頁～250頁・第13回理事会報告参照）

2. 定款一部改定

尾縣専務理事より、定款第22条、29条、38条の改定につき資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。（詳細は陸連時報2013年7月号248頁～250頁・第13回理事会報告参照）

3. その他

- ①コンプライアンス委員会及び相談窓口（報告）

尾縣専務理事より、コンプライアンス委員会及び相談窓口につき報告があった。（詳細は陸

連時報2013年7月号249頁・第13回理事会報告参照）

- ②河野会長退任挨拶

定時評議員会終了に際し、河野会長より退任の挨拶があった。

第14回及び第15回理事会（非公開）

第14回理事会を6月5日（水）に開催し、任期満了に伴う役員改選により今期の役員並びに会長、副会長、専務理事及び各専門委員長が承認された。（本号204頁参照）

第15回理事会を6月10日（月）に開催し、下記事項が承認された。

1. コンプライアンス規程新設
2. 第14回世界陸上競技選手権大会（2013／モスクワ）日本代表選手（代表選手は陸連時報2013年7月号251頁～253頁および本号211頁～213頁参照）
3. 第20回アジア陸上競技選手権大会（2013／ブネー）日本代表選手
4. 第6回東アジア競技大会（2013／天津）日本代表選手（本号215頁参照）
5. 第14回世界陸上競技選手権大会（2013／モスクワ）報奨金（本号210頁・表1参照）
6. 第17回アジア競技大会（2014／仁川）マラソン・競歩種目代表選手選考要項（本号210頁参照）
7. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）男女マラソン代表選手選考方針
8. 第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）男女マラソン代表選手選考方針

表1 第14回世界陸上競技選手権大会（2013／モスクワ）報奨金

単位（円）		
順位	選手	コーチ
1位	400万	100万
2位	200万	50万
3位	150万	50万
4位	80万	40万
5位	70万	40万
6位	60万	40万
7位	50万	30万
8位	40万	30万

*リレー種目は選手、コーチ共にそれぞれ上記表の半分とする。
 *リレー種目はすべてのラウンドを通じて出場した全選手を対象とする。
 *コーチとは、事前に申請されている専任コーチを対象とする。

第17回アジア競技大会（2014／仁川）

マラソン・競歩種目代表選手選考要項

1. 編成方針

- (1) 第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）へ向けた重点国際競技会として位置づける。
- (2) マラソン・競歩ともにメダル獲得を目指す選手団編成とする。

2. 選考競技会

(1) マラソン

1) 男子

- ①第67回福岡国際マラソン選手権大会（2013／福岡）
- ②東京マラソン2014（2014／東京）
- ③第69回びわ湖毎日マラソン大会（2014／大津）

2) 女子

- ①第5回横浜国際女子マラソン大会（2013／横浜）
- ②第33回大阪国際女子マラソン大会（2014／大阪）
- ③名古屋ウィメンズマラソン2014（2014／名古屋）

(2) 競歩

1) 男子

- ①第52回全日本50km競歩高島大会（2013／高島）
- ②第97回日本陸上競技選手権大会・20km競歩（2014／神戸）
- ③第38回全日本競歩能美大会（2014／能美）
- ④第98回日本陸上競技選手権大会・50km競歩（2014／輪島）

2) 女子

- ①第97回日本陸上競技選手権大会・20km競歩（2014／神戸）
- ②第38回全日本競歩能美大会（2014／能美）

3. 選考基準

編成方針に基づき、各選考競技会で日本人3位以内の競技者の中から各種目最大で2名を選考する。

4. 選考方法

全ての選考競技会終了後、選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。

5. その他

- (1) 派遣人数枠は、派遣母体である公益財団法人日本オリンピック委員会（以下「JOC」という）により決定され、代表選手の正式決定は、JOC理事会による。
- (2) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消しがある。
- (3) 本大会は、第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）の選考競技会とし、男女マラソン及び競歩種目で金メダルを獲得した競技者を代表選手として内定する。
- (4) 本大会は、2014年9月19日～10月4日まで仁川（韓国）で開催される。

第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)

トラック・フィールド日本代表選手メッセージ

8月10日から8月18日までロシア・モスクワで開催される第14回世界陸上競技選手権大会。7月号に引き続き、本号では、トラック・フィールドの日本代表選手を紹介し、各選手からのメッセージを掲載します。

- ①大会に向けての抱負 ②競技のココ・私のこんな姿に注目！ ③将来を夢見て練習に励む中高生に向けてのメッセージ
④ゲンを担いで大会前日の夕食に食べるもの ⑤座右の銘(信条)・好きな言葉

【男子】



山縣 亮太(ヤマガタ・リョウタ) 初出場
慶應義塾大学・広島/1992年6月10日生まれ
177cm・68kg 修道中学校 所属部:陸上部 指導者:
松澤慶久 → 修道高校 所属部:陸上部 指導者:
松澤慶久 資格記録:100m/10.11
①今シーズンで一番良い走りをする。
②レース前、緊張感をもって集中している姿。
③華奢な日本人でも、しっかり世界で戦える姿。

- ④高炭水化物。
⑤いっぱいあって選べない!



桐生 祥秀(キリュウ・ヨシヒデ) 初出場
洛南高校・京都/1995年12月15日生まれ
175cm・68kg 彦根市立南中学校 所属部:陸上競
技部 指導者:徳田明彦 資格記録:100m/10.01
①初めての世界陸上なので、自分のパフォーマンス
を発揮出来るように頑張ります。一本一本のレース
を集中して望みたいです。
②世界のひのき舞台上で高校生が躍動する姿を見守っ

- てください。
③大きな夢をもって日々目標に向かって取り組んでください。
④抹茶ラテなどの飲み物や食べ物。
⑤努力は嘘をつかない。/夢・希望は無量大。



飯塚 翔太(イヅカ・ショウタ) 初出場
中央大学・静岡/1991年6月25日生まれ
185cm・81kg 御前崎市立浜岡中学校 所属部:陸
上部 指導者:小野芳彦、浦海俊次 → 藤枝明誠高
校 所属部:陸上部 指導者:佐藤常保、清尊徳
資格記録:200m/20.21

- ①ファイナリストの一員となり、ボルトと一緒に走る。
②皆さんに、勇気と希望を与える走りをする。
③何事も正しい、意味のある事だと思って全うすることが大切です。
④ゲンは担がないようにしています。
⑤特になし。



小林 雄一(コバヤシ・ユウイチ) 2回目
NTN・三重/1989年8月25日生まれ
170cm・60kg 板橋区立桜川中学校 所属部:硬式
テニス部 → 保善高校 所属部:陸上競技部 指導
者:千野達也 → 法政大学 所属部:陸上競技部
指導者:荻部俊二 資格記録:200m/20.46
①前回大会が予選落ちだったので、それを払拭する
走りをする。一本でも多く走る。

- ②コーナリングとコーナー出口での加速。
③日本そして世界各国すべての選手が全力を発揮する姿に注目してほしい。
⑤突き抜ける。



高瀬 慧(タカセ・ケイ) 2回目
富士通・千葉/1988年11月25日生まれ
179cm・61kg 静岡市立長田南中学校 所属部:陸
上部 指導者:本間先生 → 静岡西高校 所属部:
陸上部 指導者:石代晃司 → 順天堂大学 所属部:
陸上部 指導者:佐久間和彦 資格記録:200m/
20.48
①シーズンベスト、自己ベストの更新。準決勝以上

- に進出する。
②上下動のない走り。
④なし。
⑤チャレンジなくして進歩なし。



藤光 謙司(フジミツ・ケンジ) 2回目
ゼンリン・神奈川/1986年5月1日生まれ
182cm・69kg さいたま市立三室中学校 所属部:
陸上競技部 指導者:降幡厚博 → 市立浦和高校
所属部:陸上競技部 指導者:高澤正夫 → 日本大
学 所属部:陸上競技部 指導者:安井年文 資格
記録:200m/20.48

- ①現状のパフォーマンスで満足しているようでは、
世界で戦うことはできないと思うので、本番まで短い期間ではありますが、
さらにパフォーマンスを上げる準備をしていきたいです。
②日本のリレーといえばバトンパスに注目が集まりますが、今回は個々で
戦えるメンバーが揃っているので、どこまで戦えるのが注目。
③日本人でも世界で戦えるということを証明できるようなパフォーマンス
に期待してください。
④特に決めていません。その時、好きなものを食べます。
⑤継続は力なり。



金丸 祐三(カネマル・ユウゾウ) 5回目
大塚製薬・徳島/1987年9月18日生まれ
177cm・75kg 高槻市立芝谷中学校 所属部:陸上
部 指導者:竹口恵子 → 大阪高校 所属部:陸上
部 指導者:岡本博、小塚湖 → 法政大学 所属部:
陸上競技部 指導者:荻部俊二 資格記録:400m
/45.56
①自己ベスト更新。

- ②きんにく。
④麵類が多い様な気がする。
⑤運命は勇者に微笑む。



佐藤 悠基(サトウ・ユウキ) 2回目
日清食品グループ・東京/1986年11月26日生まれ
178cm・60kg 清水町立南中学校 所属部:陸上部
指導者:朝倉和也 → 佐久長聖高校 所属部:駅
伝部 指導者:冨角速 → 東海大学 所属部:陸上
部 指導者:新居利広 資格記録:10000m/
27:39.50

- ①前回大会のテグ大会では15位という結果に終わっ
てしまったので、入賞を目指して自分の持っている力を出し切りたいです。
②10000mはトラック25周と長いですが、その間の駆け引きやラストのス
パート合戦に注目してほしいです。

③アフリカ勢を中心とした世界のトップ選手達とは力の差がありますが、その選手達にチャレンジしていくところを見てほしいです。

- ④米。
- ⑤努力。



大迫 傑 (オオサコ・スグル) 初出場

早稲田大学・長野 / 1991年5月23日生まれ
170cm・51kg 町田市立金井中学校 所属部：陸上部
指導者：山口智美 → 佐久長聖高校 所属部：駅伝部
指導者：両角速 資格記録：10000m / 27:38.31
①毎日の1つ1つの積み重ねを世界の舞台で存分に発揮したいと思います。支えてくださる方々のためにも自分を信じて挑みます。

- ②次々と先頭が入れ替わる先の読めないレースでの私のレース展開と持ち味のラストスパートをぜひご覧ください。
- ③どんな時でも挑戦者の気持ちを忘れず、どんな時でも前を見て走り続ける私の姿とレースに注目してください。
- ④甘いもの。
- ⑤誰よりも先に。



宇賀地 強 (ウガチ・ツヨシ) 初出場

コニカミノルタ・東京 / 1987年4月27日生まれ
164cm・50kg 宇都宮市立陽東中学校 所属部：陸上部
指導者：大木健 → 作新学院高校 所属部：陸上部
指導者：斎藤直人 → 駒澤大学 所属部：陸上部
指導者：大八木弘明 資格記録：10000m / 27:52.79

- ①「記録」、「順位」とともに戦ったと思われる結果を出します。それが日本の長距離の未来の為になると思うので。
- ②トラック種目、最長の距離ですので、25周の間に繰り広げられる駆け引きに注目してください！ 個人的には終盤キツくなってからの粘りの走りを見て頂きたいです。
- ③言葉では伝わらないと思うので、とにかく、攻める走りをします。1周たりとも目を離さずに見ていてください。
- ④特になし。
- ⑤耐心。



岸本 鷹幸 (キシモト・タクユキ) 2回目

富士通・東京 / 1990年5月6日生まれ
170cm・60kg むつ市立大平中学校 所属部：陸上部
指導者：高森先生、伊藤先生 → 大湊高校 所属部：館岡先生、鈴木先生、平井先生 → 法政大学 所属部：陸上競技部 指導者：刈部俊二 資格記録：400mH / 49.08

- ①元気に走る！
- ②最後まで勝負がわからない。持ち味はハードリング。
- ③常に平常心でいるところ。
- ④特になし。食べたいものを食べる。
- ⑤マイペース。



笛木 靖宏 (フエキ・ヤスヒロ) 初出場

チームアイマ・千葉 / 1985年12月20日生まれ
182cm・72kg 千葉市立山王中学校 所属部：陸上競技部 指導者：水野美由紀 → 成田高校 所属部：陸上競技部 指導者：越川一紀 → 日本大学 所属部：陸上競技部 指導者：井部誠一 資格記録：400mH / 49.31

- ①子供の時からTVで見ていた試合に、自分が出ることができることを心から光栄に思うと共に、正直実感がありません。夢と対面した自分が夢に対してどう挑んでいくか、ご期待ください！
- ②緊張しやすく、すぐに顔が赤くなってしまいう分ですが、400mHに対する取り組みは常に全力です！ 400mの間に10台ハードルを跳ぶ、ハードな種目をどうこなしていくのか。
- ③ケガを乗り越えての日本代表の獲得への道筋や忙しくなっても頑張り続けられれば叶う！ そこを伝えたいです！
- ④脂ものでも気にせず食べます。特にありません。
- ⑤千里の道も一歩から。



安部 孝駿 (アベ・タクシム) 2回目

中京大学・岡山 / 1991年11月12日生まれ
191cm・81kg 岡山市立妹尾中学校 所属部：陸上競技部 → 玉野光南高校 所属部：陸上競技部 長谷川先生 資格記録：400mH / 49.57
①世界陸上ではやれる事をすべてやって自信を持ってスタートラインに立ち、最高の走りをしたい。

- ②400mHのそれぞれのレースパターンや戦術。
- ③中高生の時に夢んでいた「世界の舞台」は僕も一緒に夢から目標へと変わり現実になりました。
- ④消化の良いもの。



山本 聖途 (ヤマモト・セイト) 初出場

中京大学・愛知 / 1992年3月11日生まれ
179cm・70kg 岡崎市立岩津中学校 所属部：サッカー部 → 岡崎城西高校 所属部：陸上部 指導者：若杉先生 資格記録：棒高跳 / 5.74
①自分らしさの跳躍をし、決勝進出。

- ②助走のリズムと突っ込み動作。
- ③ボールの反発をもらって空に舞うところ。
- ④特になし。
- ⑤感謝。



澤野 大地 (サワノ・ダイチ) 6回目

富士通・千葉 / 1980年9月16日生まれ
183cm・74kg 印西市立印西中学校 所属部：陸上部 指導者：岩井浩 → 成田高校 所属部：陸上競技部 指導者：越川一紀 → 日本大学 所属部：陸上部 指導者：澤村博 資格記録：棒高跳 / 5.60

- ①自分の跳躍に徹する。
- ②楽しく跳んでいる姿。跳躍の美しさ。
- ③世界で戦う、互角に戦う日本人選手の全力で立ち向かう姿。
- ④肉。
- ⑤克己。平常心。



荻田 大樹 (オギタ・ヒロキ) 初出場

ミズノ・香川 / 1987年12月30日生まれ
185cm・80kg 大野原町立大野原中学校 所属部：陸上部 指導者：尾藤博肇、西野和宏 → 市立観音寺第一高校 所属部：陸上部 指導者：詫間茂 → 関西学院大学 所属部：陸上部 指導者：杉本誠 資格記録：棒高跳 / 5.70

- ①せっかく頂いたチャンスなので、今の自分が世界にどこまで通用するか全力でぶつかってみます。出場するからにはメダルを狙います。
- ②棒高跳はご存知の通り道具を使います。僕は日本一固いボールを使っています。それをどこまで使いこなせるかがポイントになると思います。
- ③僕は試合中よく笑っています。楽しむ事が強くなるための1番のコツだと思います。辛い練習もありますが、笑って乗り越えられるようになれば良い結果に結びつくと思います。
- ④特にありませんが、試合が終わった後はご褒美に焼き肉を食べています。
- ⑤「一期一会」出会ったすべての人たちに「感謝」



室伏 広治 (ムロフシ・ヒロジ) 8回目

ミズノ・愛知 / 1974年10月8日生まれ
187cm・102kg 豊田市立保見中学校 → 成田高校 所属部：陸上競技部 指導者：瀧田詔生 → 中京大学 所属部：陸上競技部 指導者：室伏重信 資格記録：ハンマー投 / 76.42

- ①日本選手権後、間もなくしてアメリカでトレーニングをしています。モスクワ世界陸上に向けて頑張っている最中です。トレーニングを予定通りにこなしモスクワの舞台に立てれば良いと思っています。

※2009年・2005年は選出されたが欠場



村上 幸史 (ムラカミ・ユキフミ) 5回目
 スズキ浜松AC・静岡/1979年12月23日生まれ
 186cm・102kg 生名村立生名中学校 所属部:野球部
 指導者:福島聖史 → 今治明德高校 所属部:陸上部
 指導者:濱元一馬 → 日本大学 所属部:陸上部
 指導者:小山裕三 資格記録:やり投/85.96

①決勝で日本記録樹立。

- ②やりが飛ぶ形、放物線の美しさに注目してください。
- ③陸上競技は、身体一つで競うスポーツです。選手の努力が記録や形として表れます。その瞬間を注目してください。
- ④米、おにぎり。
- ⑤一意専心。



右代 啓祐 (ウシロ・ケイスケ) 2回目
 スズキ浜松AC・静岡/1986年7月24日生まれ
 196cm・88kg 江別市立大森東中学校 所属部:陸上部
 指導者:川村龍彦 → 札幌第一高校 所属部:陸上部
 指導者:大町和敏 → 国士舘大学 所属部:陸上競技部
 指導者:岡田雅次 資格記録:十種競技/8037

①これまで世界の大会で経験してきた事を生かし、今年、世界で勝負したいと考えています。8200～8300点のイメージはできています。

- ②196cmの巨体が走ったり、投げたり、跳んだりと身体能力の高いところを見ていただきたい。
- ③世界で戦う選手の表情や動きに注目してみてください。競技者としての多くのヒントが見つかるかと思っています。私も世界の舞台で全力で戦ってきます。中高生のみならず夢、目標に向かってがんばってください。
- ④その時々で食べたいと思ったものを沢山食べる。
- ⑤「今日から・・・がお前のスタートだ!」

【女子】



福島 千里 (フクシマ・チサト) 3回目
 北海道ハイテクAC・北海道/1988年6月27日生まれ
 165cm・53kg 幕別町立糠内中学校 → 帯広南商業高校 → 北海道ハイテクノロジー専門学校
 資格記録:200m/23.25

①速い選手の力を借りて、私自身の力以上の力を出して良い結果を残したいです。

- ②短い時間で勝負が決まるので、すべてを見てください。
- ③「いつか私も!」と思って見てもらえたらと思います。
- ④好きな食べ物。



尾西 美咲 (オニシ・ミサキ) 初出場
 積水化学・千葉/1985年2月24日生まれ
 164cm・46kg 伊勢市立小俣中学校 所属部:陸上部
 指導者:福井清 → 宇治山田商業高校 所属部:陸上部
 指導者:山本顕 資格記録:5000m/15.21.73

①初めての世界大会で緊張もありますが、平常心で自分らしいレースが出来ればと思います。

- ②レース展開が読めないところ。始めから速いペースのサバイバルレースやスローで入ってのラスト勝負など、いろんな展開があるのが魅力かなと。
- ③学生の時から強かったワケじゃなくて、コツコツがんばっていたら、28歳にして初の代表。そういう人もいるから、努力は報われると信じて、がんばってほしいなと思います。
- ④特になし。



新谷 仁美 (ニヤ・ヒトミ) 2回目
 ユニバーサルエンターテインメント・千葉/1988年2月26日生まれ
 164cm・42kg 総社市立総社東中学校 所属部:陸上部
 指導者:寺坂陽介 → 興譲館高校 所属部:陸上部
 指導者:森政芳寿 資格記録:10000m/

30:59.19

①入賞めざして頑張ります。

②レース展開に注目!!



紫村 仁美 (シムラ・ヒトミ) 初出場
 佐賀陸協・佐賀/1990年11月8日生まれ
 167cm・54kg 鳥栖市立鳥栖中学校 所属部:陸上部
 指導者:大坪先生 → 筑紫女学園高校 所属部:陸上部
 指導者:青木早穂子 → 早稲田大学 所属部:競走部
 指導者:磯繁雄 資格記録:100mH/13.02

①最低限12秒台で走り、準決勝に進む。

- ②100mハードルは、10台のハードルを感じさせない、スピード感あふれるレースがみどころ!! 外国人選手にくらいついて、走ります。
- ③外国人選手よりは体は小さいですが、それに負けない力強い走りに注目してください!!
- ④鳥原の手延べそうめん。
- ⑤ありのまま。



久保倉 里美 (クボクラ・サトミ) 4回目
 新潟アルビレックスRC・新潟/1982年4月27日生まれ
 161cm・52kg 旭川市立緑が丘中学校 所属部:バスケット部 → 旭川北高校 所属部:陸上部
 指導者:前田文男 → 福島大学 所属部:陸上部
 指導者:川本和久 資格記録:400mH/56.42

①今回は4度目の出場なので、経験をいかして準決勝で1番良いパフォーマンスをする。

- ②400mHはそれぞれレースパターンが違うので最後の最後までどうなるかわかりません。
- ③練習はうそをつかない。チャレンジャーで頑張ります。
- ④ゲンはほとんど担ぎません。
- ⑤夢はでっかく根は深く。



福本 幸 (フクモト・ミユキ) 2回目
 甲南学園AC・兵庫/1977年1月4日生まれ
 172cm・52kg 大阪市立淀中学校 所属部:陸上水泳部
 指導者:高橋敦司 → 夙川学院高校 所属部:陸上部
 指導者:宮崎好幸 → 甲南大学 所属部:陸上部
 指導者:桜井治 資格記録:走高跳/1.92

①長い競技人生で得た事を出しきりたいです。

- ②自分の身長より高いバーを美しいアーチを描いて跳ぶ走高跳に注目してください。
- ③日本人としてプライドを持ち、世界で通用する技術に注目して欲しいです。
- ④いつもはバスタです。
- ⑤最善を尽くす。



海老原 有希 (エビハラ・ユキ) 3回目
 スズキ浜松AC・静岡/1985年10月28日生まれ
 164cm・68kg 上三川町立上三川中学校 所属部:バスケットボール部
 指導者:増渕忍 → 真岡女子高校 所属部:陸上競技部
 指導者:渡辺方夫 → 国士舘大学 所属部:陸上競技部
 指導者:岡田雅次 資格記録:やり投/62.83

①決勝進出はもちろんのこと。入賞を目指して、しっかりと自分の投てきをしていきたいです。記録的には日本記録の更新を目指します。

- ②助走から投げまでの一連の流れやスピード感、投げ出す時の力強さを感じてもらえると嬉しいです。
- ③競技が好きだからこそ上手になりたい、強くなりたいと思う気持ちは一緒です。共に頑張らしましょう。
- ④好きなものを好きなだけ食べます。
- ⑤弱気は最大の敵。

強化関連情報

強化委員会

モスクワのトレーニング拠点視察報告

強化委員会強化育成部委員・跳躍 福岡博樹

2013年3月20日、ロシアのスポーツ専門学校にて、練習の見学の機会を得た。コーチの名はアレクサンドル・ブルト氏、シドニーオリンピック優勝クリュギン(2m36)やヴォロニン(2m40)らの指導経験を持つコーチである。

◇練習内容は次のようであった。

- ・跳躍練習(背面跳)、(走幅跳)
※走幅跳は7~10歩助走。砂場利用。踏切は高く上がることを意識。両脚着地
- ・ローハードルの両脚連続跳び
※高さ50cm程度。距離6足長程度。足底を転がすように両脚接地して踏切。
- ・連続ハードルジャンプ
※高さはミドル程度。上から見ると「+」状にハードルを並べ、回りながら連続跳躍をしていた。
- ・助走付き両脚交互連続跳び、片脚連続跳び
※5段程度で砂場へ両脚着地
- ・膝付きランジ姿勢からの跳び上がり
※ローギア的な補強運動
- ・バスケットリングへの跳び付き

◇背面跳の踏切技術について(ブルト氏への質疑のまとめ)

- ①踏切は速い方がいいがロシア人は比較的遅い。理由は、筋肉や神経系の働きが遅い、体重が重いなどである。
- ②踏切では、まず脚の動きが正しくできることが大切である。つま先を上げて踵から入り、素早く足底を転がして踏み切る。その際に膝は曲げない。脚の動きは、つま先は進行方向に向けて前へ出す。開き過ぎはいけない。
- ③踏切に入る際、上半身は脚部と一緒に進むことが大切である。上半身が先に突っ込んで接地時に腰が折れてはいけないし、上半身を後方へ倒して意識的に後傾させてもいけない。
- ④腕の使い方は、脚が正しくできていればどんな形でもいい。タイミングを合わせやすい形を自分で見つけるとよい。両腕振込型、片腕差し上げ型、ランニング型のどれでもかまわない。
- ⑤踏切時に働く脚の主要な筋肉は腓腹筋、ハムストリング、大腿筋の3つである。大腿四頭筋はわずかである。
- ⑥頭は動かさず真っ直ぐ伸び上がる。視線はバーの上、跳躍の放物線方向に向ける。バー側へは倒さない。

ブルト氏の技術的な指導ポイントは、比較的に欧州型の選手に見られる跳び方の基本に忠実であった。また、日本の走高跳選手は技術が高いと言われた。

◇助走について:5~7歩がよく、日本人は助走が長いとのこと。ただし補助走を歩数に数えておらず実際には歩数速度とも日本選手とさほど変わらない。補助走で軽めに走り、本助走から踏切にかけてリズムやスピードを上げていく。確かに、日本式の助走では、前半を走り過ぎて、肝心な踏切前の数歩が間延びしたり、スピードが出過ぎて踏切が負

けたりする傾向があるので、参考に出来る考え方であると感じた。

◇跳躍系運動、補強運動について:内容は基本的なものだが、ローギア的な動きが多く、跳躍も接地が長めであった。ブルト氏に確認するとロシア人は速い動きが苦手なようであった。選手の巧緻性はあまり高くなく不器用であるように感じられた。ただ巧緻性は低くとも、約半年にも及ぶ冬季に渡って継続していることは強みであろう。

◇現在の世界の走高跳界ではロシアは最強の国である。今回の視察では、私は日本の走高跳理論と技術が、果たしてロシアと比べてどのレベルにあるかを見極めたいとモスクワへ出かけた。得られたのは、ロシア人の恵まれた身体や身体能力の高さを差し引き、ソ連時代の遺産として残るトレーニング施設や選手強化システムを差し引き、世界で戦うノウハウに長けたコーチの経験値などを差し引いて、純粋な走高跳の技術、体力作りの面を比較したら、必ずしも日本が劣っているとは思えなかったというのが素直な感想である。私を感じたロシアに学ぶべき点は、

- ①一貫指導が続いていること(特に基礎体力面の強化)
- ②室内練習場が常設されていること(ロシアでは屋内練習場は不可欠であるが日本でも必要だと感じた)
- ③指導者が経験豊富なこと(ソ連時代からの優秀なコーチが残っている)である。

ロシアは人材が豊富で強国であるが、条件さえ揃えば日本も十分世界で戦えると感じた。現在のロシアはソ連時代の強化体制がいったん崩壊したようで、遺産を使って強化している印象を受けた。実際にロシアの全てのスポーツはソ連時代よりも弱くなっているようだ。日本が世界で戦うには、才能を持った「金の卵」を確実に育てる体制の整備が必要であると感じた。日本の指導者、選手の奮闘に期待したいと思う。

◇もう一つ、今回の視察で印象に残ったことがある。ブルト氏が「私は、日本の歴史や伝統・文化を尊敬している」と口にしたことである。二日後ロシア陸連パラフニチュフ会長も全く同じ言葉を口にした。昨年3月のドイツ陸連訪問時にも同様のことを聞いたという。日本大使館では「ロシアで日本は好感度が世界で三本の指に入る」と聞いた。

この経験から感じたのは、日本代表には日本人としての誇りを持てるような指導が必要ではないかということであった。海外へ出たときの指導者や選手の精神力を支える原動力になると思われる。また日本代表でなくとも陸上経験者から国際舞台で活躍する人材も多々生まれるはずである。海外に出た日本人が日本の歴史・伝統・文化を知らずに恥をかくと言われて久しい。日本中の中・高や大学の陸上競技部で日本人としての誇りを持てるような指導がなされるのが、将来の日本陸上界の競技力向上、ひいては日本国の発展に必ずやつながるという思いを抱いて帰路についたモスクワ視察であった。

第6回東アジア競技大会 (2013/天津)

日本代表選手について

10月7日(月)から10日(木)まで中国・天津で開催される第6回東アジア競技大会。

日本代表選手を6月10日に発表致しましたので、紹介致します。

ます。選考要項の編成方針にもあったように、将来的に活躍が期待される若手競技者を積極的に派遣することを念頭に選手の選考を致しました。なお、本大会と国体の日程が重なるために、各都道府県陸協には格別のご配慮を賜りました。ここに記して御礼を申し上げます。

表 第6回東アジア競技大会 (2013/天津) 日本代表選手

男子 30名						
種目	選手	フリガナ	登録陸協	所属	生年月日	
短距離	山縣 亮太	ヤマガタ・リョウタ	広島	慶應義塾大学	1992/06/10	
	大瀬戸 一馬	オオセト・カズマ	福岡	法政大学	1994/08/05	
	飯塚 翔太	イイツカ・ショウタ	静岡	中央大学	1991/06/25	
	ケンブリッジ飛鳥	ケンブリッジ・アスカ	東京	日本大学	1993/05/31	
	山崎 謙吾	ヤマサキ・ケンゴ	埼玉	日本大学	1992/07/30	
中距離	小林 直己	コバヤシ・ナオキ	神奈川	東海大学	1990/12/20	
	川元 奨	カワモト・ショウ	長野	日本大学	1993/03/01	
長距離	安齋 宰	アンザイ・ツカサ	神奈川	順天堂大学	1994/07/03	
	星 創太	ホシ・ソウタ	千葉	富士通	1988/01/06	
ハードル	中村 匠吾	ナカムラ・ショウゴ	三重	駒澤大学	1992/09/16	
	松本 葵	マツモト・アオイ	徳島	大塚製薬	1987/09/07	
	矢澤 航	ヤザワ・ワタル	神奈川	法政大学	1991/07/02	
跳躍	佐藤 大志	サトウ・ヒロユキ	東京	日立化成	1990/08/06	
	安部 孝駿	アベ・タカトシ	岡山	中京大学	1991/11/12	
	野澤 啓佑	ノザワ・ケイスケ	山梨	早稲田大学	1991/06/07	
	戸邊 直人	トベ・ナオト	千葉	筑波大学	1992/03/31	
投擲	山本 聖途	ヤマモト・セイト	愛知	中京大学	1992/03/11	
	荻田 大樹	オギタ・ヒロキ	香川	ミズノ	1987/12/30	
	大岩 雄飛	オオイワ・ユウヒ	東京	モンテローザ	1991/02/17	
	巖村 鴻汰	ミネムラ・コウタ	長野	筑波大学	1992/12/22	
	松下 翔一	マツシタ・ショウイチ	兵庫	筑波大学	1989/04/18	
	畑瀬 聡	ハタセ・サトシ	群馬	群馬総合ガードシステム	1982/12/18	
	堤 雄司	ツツミ・ユウジ	北海道	国士舘大学	1989/12/22	
混成	柏村 亮太	カシムラ・リョウタ	鳥取	日本大学	1991/08/13	
	ディーン 元気	ディーン・ゲンキ	兵庫	早稲田大学	1991/12/30	
	高力 裕也	コウリキ・ユウヤ	鳥取	鳥取AS	1989/10/19	
競歩	右代 啓祐	ウシロ・ケイスケ	静岡	スズキ浜松AC	1986/07/24	
	中村 明彦	ナカムラ・アキヒコ	静岡	スズキ浜松AC	1990/10/23	
女子 28名	高橋 英輝	タカハシ・エイキ	岩手	岩手大学	1992/11/19	
	藤澤 勇	フジサワ・イスム	東京	A L S O K	1987/10/12	
	短距離	土井 杏南	ドイ・アンナ	埼玉	埼玉栄高校	1995/08/24
		木村 茜	キムラ・アカネ	滋賀	大阪成蹊大学	1993/06/04
		市川 華菜	イチカワ・カナ	愛知	ミズノ	1991/01/14
		田村 友紀	タムラ・ユキ	岩手	岩手大学	1991/07/08
		鳥原 早貴	トリハラ・サキ	鹿児島	青山学院大学	1992/02/28
	中距離	新宮 美歩	シングウ・ミホ	大阪	東大阪大学	1991/11/29
		伊藤 美穂	イトウ・ミホ	神奈川	順天堂大学	1992/10/28
	長距離	森 智香子	モリ・チカコ	長崎	大東文化大学	1992/11/25
		松崎 璃子	マツザキ・リコ	千葉	積水化学	1992/12/24
	ハードル	清水 裕子	シミズ・ユウコ	千葉	積水化学	1985/07/13
		三郷 実沙希	サンゴウ・ミサキ	静岡	スズキ浜松AC	1989/04/21
伊藤 愛里		イトウ・アイリ	兵庫	住友電工	1989/07/05	
相馬 絵里子		ソウマ・エリコ	秋田	筑波大学	1991/09/30	
跳躍	青木 沙弥佳	アオキ・サヤカ	福島	東邦銀行	1986/12/15	
	芝田 陽香	シバタ・ハルカ	京都	チームミズノアスレティック	1991/01/13	
	三村 有希	ミムラ・ユキ	大阪	チームミズノアスレティック	1988/08/12	
投擲	竜田 夏苗	タツタ・カナエ	大阪	武庫川女子大学	1992/07/21	
	平加 有梨奈	ヒラカ・ユリナ	室蘭	北翔大学	1991/06/04	
	清水 珠夏	シミズ・タマカ	千葉	中央大学	1991/06/22	
	山根 愛以	ヤマネ・メイ	兵庫	園田学園女子大AC	1988/09/05	
	茂山 千尋	シゲヤマ・チヒロ	東京	国士舘クラブ	1989/06/11	
	敷本 愛	シキモト・アイ	東京	国士舘クラブ	1983/08/21	
	武川 美香	タケカワ・ミカ	静岡	スズキ浜松AC	1985/06/26	
混成	海老原 有希	エビハラ・ユキ	静岡	スズキ浜松AC	1985/10/28	
	久世 生宝	クゼ・キホウ	岡山	筑波大学	1995/03/28	
	桐山 智衣	キリヤマ・チエ	岐阜	中京大学	1991/08/02	
競歩	岡田 久美子	オカダ・クミコ	埼玉	立教大学	1991/10/17	
	前田 浩唯	マエダ・ヒロイ	京都	立命館大学	1991/06/01	

※代表選手の正式決定は、JOC理事会による。

2013 IAAF CECS Level 1 Lecturers Course 研修会報告

普及育成委員会 普及育成部 幹事 井筒紫乃

国際陸上競技連盟 (IAAF) 主催、コーチ育成・認証システム (CECS) Level 1 Lecturers Course 研修会が、2013年4月21日 (日) ~ 26日 (金) の日程で中国・北京体育大学内において開催され、Level 1 Lecturersの資格取得に向けて研修会に参加した。4月下旬の北京はまだ気温も低く、特に朝晩の気温の寒暖差が大きかったが天候には恵まれた6日間であった。

会場となった北京体育大学は北京市西北部の郊外に位置し、広大な敷地に大学環境が整っており、学生寮だけではなくゲストのための宿泊施設やレストランも充実している。400mトラックが屋外に3つ、200mトラックが屋内に2つあり、学生たちは授業やトレーニングに励んでいた。研修中も、同じ屋内競技場で授業が行われていたが、自由な雰囲気の中にも何か張りつめた空気のようなものが感じられた。

研修会はドイツのMr. Karl Gunter Lange氏と中国の張英波氏の2名の上級講師によって行われた。中国・台湾・香港・ベトナム・ラオス・イラン・韓国・北朝鮮・モンゴル・日本からの18名、10カ国に渡る様々な国からの参加があった。研修は英語と中国語で行われ、中国語の通訳を北京体育大学の李教授にしていたが大変お世話になった (日程表)。

6日間の中に、北京市内の小学生を招いてのキッズアスレティックスイイベント、実技・プレゼンテーション・面接の3回の試験が盛り込まれ、午前・午後びっしりとスケジュールが組まれたが、厳しいながらも充実した研修となった。概要は、13~15歳を中心とした陸上競技選手へのコーチング理論・実技研修に加え、キッズアスレティックス理論・イベント、それぞれの受講者がくじで決まった種目についてコーチング実技の試験、コーチング方法のプレゼンテーション、発育発達に基づいた陸上競技の指導法について4つの質問がなされる面接試験であった。

コーチング理論の内容としては、発育発達期の子どもは神経系の発達が顕著であるため、跳躍系やハードルの踏切足、投擲種目の投げ手は左右両方で行うことが大切であること、また、子どもたちには個人よりチームで楽しむことを体験させるために、国際陸連が世界各国で推進しているキッズアスレティックスを全ての小学校で導入してほしいとのことであった。さらに、アジア地域は先生が一方的に話し、子どもたちから質問が出ることがない。一方アメリカ・ヨーロッパ地域ではディスカッション形式の授業が多く、積極的に子どもたちから質問が出るという文化の違いについて触れられ、特に日本はその傾向が強いと指摘を受けた。

また、世界各国共通の現状として、今の若者はITの進歩により、ご飯を食べながらメールができた、勉強をしなが



ら音楽を聴いたりすることができるなど、1つのことだけではなくいろいろなことを重複して行うことができるが、すぐに飽きてしまうということであった。よって、子どもの頃は多種目に渡っていろいろな運動経験をさせる必要がある。

実技講習では、W-upで行うストレッチングの方法から始まり、2日目に跳躍、3日目に投擲、4日目に走種目 (ハードル・障害・競歩を含む) と、陸上競技種目全てについて、中学生レベルに指導するための技術指導が行われた。中には陸上競技の経験のない小学校の教員もおり、初めてやりやハンマー、ポールを持ったという受講者もいたが、それぞれ真剣に講師の言葉一つ一つに耳を傾け、熱心にメモをとっていた。

3日目の午後、近隣の小学3年生を大学内に招き、キッズアスレティックスイイベントを行った。1チーム8名、6チームの計48名の参加があり、ハードルリレー、クロスホッピング、棒幅跳び、メディシンボール投げ、ヴォーテックス投げ、フォーミュラ1 (障害物競走リレー) の6種目で行われた。受講者それぞれが担当の種目につき (私はヴォーテックスを担当した)、チームごとにまわってくる小学生の試技の補助についた。それぞれの競技がスムーズに流れ、W-upから閉会式まで2時間以内で終了。最後に、子どもたちには国際陸連のディプロマとTシャツが渡された。

試験については、前日の午後に課題が出され、夜は勉強時間として与えられた。実技・プレゼンテーション・面接とも基本的なコーチング理論・指導法について出題された。私は、実技が棒高跳、プレゼンテーションがハードルと専門外ではあったが、対象がキッズジュニアであるため、説明はシンプルにわかりやすくすることを心がけた。面接試験について発育発達に関する問題が4問出され、子どもは多種多様なスポーツを行うことが望ましいこと、陸上競技の種目では、ハードルのトレーニングが神経系の発達にはプラスになるのではないかと述べた。面接試験の後、3つの試験の合計点数が

出され、Mr. Karl Gunter Lange氏から合格を伝えられた。

6日間の研修は終わってみれば短かった感じではあるが、得るものがとても多く充実した研修会であった。この研修会で得た様々な知識や情報を今後の指導現場に生かしていかなければと強く思っている。

最後に、日本陸連からこのようなチャンスをいただけたことに感謝しながら、報告を終える。

日程表

	A.M. Session	P.M. Session	Evening
4/21 (日)	Opening Ceremony & Introduction To the course Generation 'Y' General approach	Structural Model of Talent Promotion Teaching Skills	Welcome Dinner
4/22 (月)	Jump: LJ/TJ/PV/HJ The Training Session	Introduction to KA Presentation of KIDS ATHLETICS	Study Time
4/23 (火)	Throw: HT/JT/DT/SP Preparation for KA Competition (Workshop)	KA Competition	Study Time
4/24 (水)	Track: S/H/Distance/Steeple/RW Administration How to prepare your presentation	Assessment/Practical	Study Time
4/25 (木)	Assessment Classroom Presentation	Assessment Classroom Presentation	Study Time
4/26 (金)	Assessment Oral examination	Free Time	

大会観戦ガイド

今年もジュニア・ユース世代の夏が始まります。目指せオリンピック！若きアスリートたちの活躍を、ぜひ応援して下さい！

平成25年度 全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 秩父宮賜杯 第66回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

- ▼競技期日： 7月30日（火）～8月3日（土）
総合開会式 7月28日（日） 10：00～
陸上開始式 7月30日（火） 8：30～
- ▼会場：大分スポーツ公園大分銀行ドーム
大分県大分市大字横尾1351 TEL：097-528-7700
- ▼アクセス：JR大分駅より路線バス 大分バス本社前
3番のりば（マクドナルド前）乗車、大分スポーツ公園東降車
- ▼種目：〈男子〉100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mハードル、400mハードル、3000m障害物、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、八種競技 〈女子〉100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、100mハードル、400mハードル、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投、やり投、七種競技
- ▼問い合わせ先：
平成25年度全国高等学校総合体育大会
大分市実行委員会事務局
TEL：097-558-2600 FAX：097-558-0550
E-mail rikujyou@2013-interhigh-oitacity.jp
ホームページ <http://www.2013-interhigh-oitacity.jp>

平成25年度 第48回全国高等学校 定時制通信制陸上競技大会

- ▼期日： 8月12日（月）～14日（水）
開会式 8月12日（月） 13：30～
- ▼会場：国立競技場
東京都新宿区霞ヶ丘町10番地
TEL：03-3403-1151
- ▼アクセス：JR総武線「千駄ヶ谷駅」下車徒歩5分、JR総武線「信濃町駅」下車徒歩5分、東京メトロ銀座線「外苑前駅」下車徒歩15分、都営地下鉄大江戸線「国立競技場駅」下車徒歩1分

- ▼種目：〈男子〉100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、400mハードル、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投 〈女子〉100m、200m、400m、800m、3000m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投
- ▼問い合わせ先：
全国高等学校定時制通信制陸上競技大会事務局
（日本放送協会学園高等学校内）
TEL：042-573-8111 FAX：042-572-3332

第48回全国高等専門学校体育大会陸上競技

- ▼期日： 8月18日（日）、19日（月）
- ▼会場：上荒川公園内・いわき陸上競技場
福島県いわき市平下荒川字南作86
TEL：0246-28-2577
- ▼アクセス：
◇お車をご利用の場合…常磐自動車道いわき中央ICより車で約20分
◇電車をご利用の場合…JR常磐線いわき駅下車。バス（鹿島経由小名浜行）で約15分「運動公園入口」下車の後、徒歩で約10分／タクシーで約15分
- ▼種目：〈男子15種目〉100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mハードル、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投（6kg）、円盤投（1.75kg）、やり投 〈女子4種目〉100m、800m、走幅跳、砲丸投（4kg）
- ▼問い合わせ先：
第48回全国高等専門学校体育大会陸上競技事務局
（福島工業高等専門学校学生課内）
TEL：0246-46-0734 FAX：0246-46-0742



昨年のインターハイ男子100m決勝

JAAF
TOCHIGI

一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0152 宇都宮市西川田5丁目4-18
コーポランド西川田駅前ビル103
TEL.028-612-8594 FAX.028-612-8549
http://www.jaaf Tochigi.jp/index.htm

4月1日付けで一般財団法人に登録が認められ、下記の役員のもと、新たなスタートを致しました。

会長：高橋文吉

副会長：岡部正英（再任）、鳥居行雄（再任）、菊地強（再任）、

小堀信夫（再任）、石川善之（再任）

理事長：諏佐取（再任）

今年度、東京・味の素スタジアムで6月に開催された日本陸上競技選手権大会において、本県出身の海老原希選手（スズキ浜松AC）が女子やり投、男子では宇賀地強選手（コニカミノルタ）が10000mで活躍をされ、8月に開催される世界陸上競技選手権大会と海老原選手は10月に開催される東アジア競技大会の出場も決定し、本大会での活躍を期待しています。

更に、全国小学生陸上競技交流大会県予選会を開催し、女子ソフトボール投や男女のリレーなど全国でのさらなる活躍を期待しています。

11月には高校の、12月には中学校の関東駅伝大会を本県で開催し、審判員のご協力をお願いするところです。

また、選手強化の面からも今後の高校インターハイ、中学校全国大会、全国マスターズ大会等、多くの競技会において、本県関係選手の活躍を期待しています。（文責：理事長 諏佐 取）

JAAF
SAITAMA

一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034 上尾市愛宕3-28-30
埼玉県営上尾運動公園陸上競技場気付
TEL.048-771-4248 FAX.048-772-4566
http://sairiku.net/

4月の大川杯ハンマー投記録会より今年度のシーズンがスタートしました。6月には、高校総体における関東大会を熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催しました。そして9月20日（金）～22日（日）まで、熊谷市において第61回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会を行います。大会に出場される選手の皆様がベストな状態で競技に臨むことができますように万全な準備態勢を整えるとともに、全国各地から多くの方々のご来場を心待ちにしております。

今年度は、7月にアジア選手権（インド）、ユニバーシアード（ロシア）、8月に世界選手権（ロシア）、10月に東アジア競技大会（中国）が行われ、埼玉県からもそれぞれの大会に多くの選手が出場します。

アジア選手権では、武田毅選手（大宮東高出身、スズキ浜松AC）が出場します。ユニバーシアードでは、短距離から山崎謙吾選手（埼玉栄高出身、日本大学）、長距離から服部翔大選手（埼玉栄高出身、日本体育大学）、投てきから新井涼平選手（杉戸高出身、国士舘大学）、ハーフマラソンから設楽悠太選手（武蔵越生高出身、東洋大学）が出場します。世界選手権では、男子マラソンから川内優輝選手（春日東高出身、埼玉県庁）、藤原正和選手（Honda）、短距離から藤光謙司選手（市立浦和高出身、ゼンリン）、競歩から荒井広宙選手（自衛隊体育学校）が出場します。東アジア競技大会では、山崎選手、土井杏南選手（埼玉栄高）、岡田久美子選手（熊谷女子高出身、立教大学）が出場します。各大会における日本代表選手のご活躍を祈念しております。（文責：総務委員 内住祐介）

JAAF
GUNMA

一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871 高崎市上豊岡町145-5 今井酒店 気付
TEL.027-345-7790 FAX.027-345-7791
http://gold.jaic.org/gunma/index.html

役員改選で副会長1・総務委員長・審判部長が交代となりましたが、引き続き中曽根弘文会長のもと、2013年度のスタートを切ることになりました。角田登副会長が春の叙勲で、めでたく旭日小綬章を受章されました。氏の功績を讃えたいと思います。ルール改正により、スタート時に「警告」が与えられるようになりました。競技運営上多少の混乱があるかと思われましたが、スターター・出発係の理解と協力により、ほぼ問題なくシーズンをスタートすることができました。

日本選手権での本県関係選手の活躍を紹介します。

☆男子砲丸投：畑瀬 聡（群馬総合ガードシステム）1位18m30

☆男子ハンマー投：野口裕史（群馬総合ガードシステム）2位70m11

☆女子400m：大木彩夏（新島学園高校）2位53.17

☆女子棒高跳：浜名 愛（ししま俱楽部）2位4m00

☆女子5000m：竹地志帆（ヤマダ電機）3位15.29.85

☆女子走高跳：金井 瞳（筑波大学）3位1m70

☆男子走高跳：高山 豊（順天堂大学）5位2m15

☆男子走幅跳：菅井洋平（ミズノ）6位7m43

☆男子棒高跳：田中 充（群大T.F.荒牧クラブ）7位5m30

☆女子棒高跳：諸田実咲（おたのスポーツアカデミー）7位3m60

この結果、第20回アジア陸上競技選手権大会に、野口選手と竹地選手が選出されました。また、第6回東アジア競技大会に、畑瀬選手が選出されました。

JAAF
CHIBA

千葉陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323
千葉県総合スポーツセンター 国際千葉駅伝事務局内
TEL.043-252-7311 FAX.043-252-7314
http://www.jaaf-chiba.jp/

8月のモスクワ世界陸上日本代表選手として、本県登録のユニバーサルエンターテインメントの新谷仁美選手（長距離）、チームアイマの笛木靖宏選手（400mH）、富士通の澤野大地選手（棒高跳）・高瀬慧選手（短距離）・鈴木雄介選手（競歩）・森岡紘一朗選手（競歩）・大和久美選手（競歩）の7名が選ばれました。モスクワで持てる力を発揮し大いに活躍して頂きたいと期待しております。

本年度は審判講習会を3月31日に開催しましたが、新たな試みとして午前中は全体講習会を午後は部別研修を行いました。参加者は2つの部署を選び、実技を交えての研修といたしました。経験のない部署も研修することになりましたが、審判員としての知識を深めて頂き、審判技術の向上に繋げたいと考えております。

4月の県記録会から始まった今シーズンですが、お陰様で順調に進行しております。今後は、千葉県選手権、7月にクラブ対抗、小学生交流大会予選会と続きます。小学生大会は今年も1000人を超えるエントリーが見込まれます。将来のアスリート達が陸上競技を始めるきっかけとなる大会であり、今後も大いに盛り上げていきたいものです。

11月23日には、25回目となる国際千葉駅伝を開催します。国際色を高め、中学生記録会、小学生フレンドシップタイムトライアル、中学校マーチングバンド演奏、地元グルメ、ちびっこ応援隊の結成等サブイベント面も工夫をする予定です。駅伝ファンをはじめ、地域の方々やちびっこ達に駅伝を身近に感じて頂ける大会となるよう努力する所存です。

陸協NEWS



JAAF
TOKYO

公益財団法人東京陸上競技協会

〒160-0021 新宿区歌舞伎町1-28-3 武井ビル4F
TEL.03-3203-6123 FAX.03-5292-0196
<http://www.toriku.or.jp/>

久しぶりの東京開催となったセイコーゴールデンランプリ東京、日本選手権では陸上の楽しさ、感動を与えてくれ感謝しております。10月には、全国から多くの選手を集めてのスポーツ祭東京2013(国民体育大会、全国障害者スポーツ大会)を開催します。また、9月7日にはオリンピック・パラリンピックの開催都市が決まります。それだけに今年の前半は東京にとって重要な時期でありました。一方、大会の準備、開催と並行して公益財団法人への移行の準備を進めており、本誌の届くころには、新しい看板を掲げ、新しい組織で国体を迎えることになり、役員一同フル回転しております。

JAAF
YAMANASHI

一般財団法人山梨陸上競技協会

〒400-0024 甲府市北口2-14-14 山梨文化会館東館内
TEL.055-251-4581 FAX.055-251-4581
<http://yamanashitf.web.fc2.com/>

6月開催の日本選手権において飯野摩耶選手が女子1500m3位、野澤啓佑選手が男子400mH4位、剣持早紀選手が女子三段跳4位の活躍は山梨に活気を与えてくれました。南関東高校でも上田健太選手が男子5000m優勝、矢ノ倉弘選手が男子3000mSC優勝など15名のインターハイ出場を獲得し新たな若いを発揮してくれました。これからもそれらに続く活躍できる選手を育てるべく、選手強化に力を注いでいきたいと思っております。

競技運営面では今年8月関東選手権大会、来年夏には全国インターハイ開催を控えた「真心ある大会」を目指した競技運営が求められています。選手主体の競技会の運営が十分に図られているのか、審判員同士の連携は十分なのか、しっかりと議論して審判知識と技術の向上を図り日本一の競技運営を目指していきたいと思っております。

そして、4月から山梨陸協は、一般財団法人山梨陸上競技協会として新たなスタートをしました。社会的な信用度が増すことで期待も大きくなります。組織強化、選手強化、財政の強化等改善・改革しなければならぬ問題が山積しています。更に力を結集し、チームワークよく山梨陸協のシンボルマークのごとく情熱と向上心を持ち地道にコツコツと前進するという姿勢を大切に今後も活動を盛り上げ、「山梨はひとつ」の合い言葉の下一層発展させなければと考えています。

(文責：専務理事 保坂一仁)

JAAF
KANAGAWA

一般財団法人神奈川陸上競技協会

〒231-0012 横浜市中区相生町1-18 光南ビル5F-B
TEL.045-210-9660 FAX.045-210-9667
<http://www.kanagawariku.org/>

4月開催の神奈川県記録会兼国体選考会を皮切りに、2013年度のシーズンが開幕しました。昨年度の皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝競走大会において大会新記録で優勝という嬉しい追い風に乗って新年を迎えました。そして今年度は新たに法人化となって「一般財団法人神奈川陸上競技協会」としてスタートの年でもあります。河野太郎会長をはじめとした新体制で新しい神奈川陸上競技協会の基盤をつくっていき、本協会が目的としている陸上競技の普及と振興、競技力の向上、そしてスポーツ文化の進展と県民の心身の健全な発達に寄与することについて、真摯に取り組んでいきたいと決意を新たにしているところです。

競技会運営においては、6月の日本学生個人選手権、8月の「日清食品カップ」全国小学生交流大会、10月にジュニアオリンピック、そして11月には横浜国際女子マラソンと全国規模の重要な大会が控えています。これまでどおり選手のための運営をこころがけ、さらに陸上競技が活性化される競技会になるよう努力をしていきたいと考えています。また、6月に開催された日本選手権では本県選手が5名優勝を飾り、他14名の入賞、そして県新記録を3つ樹立する活躍をしました。世界ユースには5名の高校生が選ばれ、ユニバーシアードにも上野泰加選手(筑波大学)と鈴木ひとみ選手(玉川大学)の2名が出場します。本県選手の世界での活躍が非常に楽しみであり、そういった選手を中心とした「チーム神奈川」で国体や駅伝に臨み、好結果をおさめることを期待しています。

(文責：専務理事 吉田秀志)

JAAF
NIIGATA

一般財団法人新潟陸上競技協会

〒950-0933 新潟市中央区清五郎67-12
東北電力ビッグスワンスタジアム内
TEL.025-257-7636 FAX.025-257-7691
<http://www.nrkk.net/>

競技面で特筆すべきは、先日行われた日本選手権400mHで優勝した新潟アルビレックスランニングクラブの久保倉里美選手です。ベスト記録こそ出せませんでした、56秒62で走り、見事世界選手権への出場権を獲得いたしました。本番のモスクワでは大試合に強い面を大いに発揮し、大活躍してくれるものと期待しています。

また、競技運営面では、2015年6月に日本選手権が新潟の東北電力ビッグスワンスタジアムで開催されることと決定されております。今年から着々とその準備に取りかかっております。先日日本選手権にも視察に伺い、様々なことを勉強させていただきました。記録が出て盛り上がる、競技者にも観衆にも喜んで頂ける大会にしたいと考えております。多くの皆様のご支援をいただきながら精一杯準備して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸上競技連盟ウェブサイトでは、各種情報を公開しています!◆◆

アドレス <http://www.jaaf.or.jp>



「陸上ファンの方へ」の頁では、観戦に役立つ大会情報や選手名鑑、記録等。「競技者・審判・委員会の方へ」の頁では、競技会に参加するための資格等の情報、ルールブック・ハンドブック情報、登録の仕方等。「日本陸連について」の頁では、団体情報、委員会情報、出版物の紹介等を行っています。

◆◆陸上競技ルールブック2013年度版／陸上競技審判ハンドブック2013-2014年度版

全国の書店、ネット書店で販売しています。◆◆

陸上競技関係者や愛好家のための2013年度版のルールブック、審判員のための2013-2014年度版ハンドブックの発売を4月から開始しました。

修改正のあった国際及び日本国内陸上競技ルールを反映し、すべてのルールのほか競技場の仕様、全国の公認陸上競技場一覧などを掲載しているルールブック。

競技規則を正しく把握して、審判技術の理解を深め円滑な競技会運営を実行するために審判員必携のハンドブック。

お近くの書店にない場合は、電話またはホームページからご購入いただけます。

お電話でのご注文の場合：025-780-1231（ベースボール・マガジン社 受注センター）

ホームページからご注文の場合：ベースボール・マガジン社のホームページ

<http://bookcart.sportsclick.jp>

陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩（陸連会長）
- 三宅 勝次（陸連副会長）
- 友永 義治（陸連副会長）
- 尾懸 貢（陸連専務理事）
- 原田 康弘（陸連強化委員長）
- 風間 明（陸連事務局長）
- 高橋 克実（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

- 森 泰夫
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 本田香代子
- 森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人
日本陸上競技連盟 事務局内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>